

令和7年11月18日

鎌倉市中央図書館
館長 栗原 章郎 様

鎌倉市図書館協議会
委員長 千 錫烈



第5次鎌倉市図書館サービス計画の策定について（答申）

令和7年3月11日付け鎌教委函第2103号により諮問のありました標記のことについて、以下のとおり答申します。

別添の、第5次鎌倉市図書館サービス計画（素案）に加え、本日の鎌倉市図書館協議会での各委員の意見を参考に策定されるよう要望します。



第5次鎌倉市図書館サービス計画について（答申意見）

◆サービス計画の評価できる点

- ・「読書バリアフリーサービスの充実」「知識・情報のハブとなるサービスの拡充」「鎌倉の魅力を発信する図書館」の3本柱が明確化されており、その目標のためのサービス展開が明確に示されている点
- ・電子書籍・Wi-Fi・地域資料のデジタル化といった「デジタル化」だけでなく、「読書バリアフリー資料の充実」「市民ニーズに合った蔵書の充実」といった資料面や「複合施設化」「ICタグ導入」などの設備面、さらには「司書職の継続的な育成」といった人材面までバランスよく網羅的に言及している点
- ・地域特性（鎌倉の歴史・文化・地域資料）を図書館サービスと結びつけ、「地域の魅力を発信する図書館」を目指している点
- ・「子ども読書活動推進計画」と関連し、子どもの居場所にもなれる「誰もが安心して利用できる施設環境の整備」に言及している点

◆計画を進める上で留意していただきたい点

- ・各施策に対する数値目標や進捗指標を明確化すると、計画の実効性やモニタリングが容易になるので、具体的な実施計画には数値や指標の目標を挙げていただきたい。ただし、数値や指標は現実的な範囲で検討していただきたい。
- ・読書バリアフリーは障害者・高齢者・外国籍や外国にルーツも持つ市民・移動に制約がある市民など、様々な方が対象であり、幅広い施策が求められる。また、同時に一般市民への読書バリアフリーの理解は、読書が困難な人々への理解促進に繋がり、例えば外国語の図書の実装であれば海外の理解や在住外国人への理解の促進といった役割も果たすこととなります。こうした一般市民に向けての発信も積極的に行っていただきたい。
- ・新館計画の遅延が懸念される状況ではありますが、新施設に注力するあまり既存館の活用が後回しにならないよう、施設環境の最適化も並行して検討していただきたい。
- ・サービス計画自体には自明の前提として明示的な記述は見られませんが、住民が気軽に利用できる図書館の利便性を損なわず、市内全域へ安定した図書館サービスを提供するためには、現行の5館体制を堅持することが不可欠である。

- ・「地域の魅力を集積・発信する図書館」という方向性は素晴らしいが、地域資料の収集・保存・公開という面で、災害対応、温湿度管理、貴重資料の長期保存体制 など、インフラ面・コスト面・専門人材育成の観点からも備えを明らかにすることが望まれる。
- ・利用者・市民との対話や参加を継続的に実施し、フィードバックを計画に反映させることで、市民参画感と信頼性を高められるので、図書館協議会や、図書館友の会、ボランティア団体、市内の各種団体との連携・協力体制の向上に引き続き努めていただきたい。
- ・司書や専門職員の継続的採用・研修による専門性向上は不可欠である。中長期的な視点での人材育成の計画も検討していただきたい。
- ・また、図書館サービスや人材育成の継続性の観点から、専門性を有する司書が中心となる直営の運営体制の継続が必須だと考えます。指定管理者や業務委託を行うと、専門性の蓄積や地域資料の継続的活用に支障をきたすおそれがある。
- ・生成 AI の普及により、情報の信頼性・正確性の重要性が高まっているため、図書館における正確で信頼できる情報提供の役割は今後さらに増大すると考えられる。情報リテラシー支援や信頼性の確保を意識したサービス設計も重要である。
- ・職員の熱意だけでは限界があるので、サービス計画に見合った予算や人材の確保が必要である。予算の裏付けがないとサービス計画自体が机上の空論になってしまう。